

# 高齢化社会の高齢者の生活全般に対する課題は

## 町長 高齢者を支える世代の減少を踏まえた取り組みを進める



奥山勝吉 議員

**高齢者の世帯数は**

**問** 65歳以上と75歳以上のひとり暮らしの人数と、高齢者のみの世帯数は。

**健康福祉課長**

65歳以上は549人、75歳以上は299人、65歳以上の高齢者のみの世帯は1166世帯である。（30年4月現在）

**单身男性の生活不安は**

**問** 单身者の悩みや要望へのアンケート調査をすべきでは。

**企画政策課長**

今のところ、しほり込んだアンケートは実施していない。第6次総合計画策定に向けて、どのように意見を集約していくか検討する。

**高齢者の働く場は**

**問** 高齢者の社会参加と働く意欲の醸成は。

**健康福祉課長**

70代も現役に近い形で活躍している。地域の中での高齢者の活躍に期待する。シルバー人材センターへの登録者数も減っているが、高齢者の社会参加にどのような支援ができるか検討したい。

**商工観光課長**

各企業では、人手不足により、長く働いてもらわなければならぬ状況。特に専門的な知識のある方には、70歳位まで働いてもらわないと人材も育たないとのこと。

**農林課長**

90歳を超えた方が直売所に出荷し、売れることが励みになっている事例もある。直売所等を利用しながら収入増につながるようPRしていく。

**高齢者の買い物支援は**

**問** 買い物環境充実に買物実証実験事業の御用聞きと、がんばる商店応援事業の中間状況は。

**商工観光課長**

御用聞きは蚕桑地区を対象に実施。利用者は10人である。高齢者は他の方法でも買い物ができるため、今後移動販売に集約できないか検討している。がんばる商店応援事業は、共同組合ゆーしーが実施するポイントカード事業に対する支援。29年度と比較し、43万5千ポイント、金額では4350万円ほど増えている。うち半分は町補助金のため、実質2200万円ほどの経済効果とみている。



七ヶ宿町の公設民営コンビニ

**買い物弱者への対応は**

**問** 公設コンビニのような形の施設で、生活産品が買える状況が必要では。

**町長**

鮎貝区からも要望書が提出されており、真摯に受け止めている。鮎貝、蚕桑の事業者とも調整していく必要があるが、総合的な商店の出店及び移動販売等は重要であると考えられている。新荒砥橋が開通する前に、方向性を決められればと考えている。



高齢者の声を常に受け止めて。